

共通参照レベル：話し言葉の質的側面

	使用領域の幅	正確さ	流暢さ	やり取り	一貫性
C2	細かい意味のニュアンスを正確に伝えたり、強調したり、区別したり、あいまいさを避けるために、いろいろな言語形式で自由に言い換えができ、非常に柔軟に考えを表現できる。慣用表現、口語体表現も上手に用いることができる。	例えば、先を考えたり、他人の反応に注意を向けながらも、複雑な言葉を文法的に正しく使える。	自然な流れの口語体で、ある程度の長さの自己表現ができる。難しいところは避け、修正を円滑に行い、相手がそれと気がつかないぐらいである。	非言語標識、あるいはイントネーション標識を選んで使い、明らかに無理せずに、軽々と上手に会話をする事ができる。発言の機会を自然に上手につかみ、前の発言に言及したり示唆したりしながら、会話の流れに寄与することができる。	適切に多様な談話構築手法と幅広い接続表現、結束手段を用いて、具体性があり、脈絡があり、また一貫性のある談話をすることができる。
C1	幅広い言葉の使いこなしができ、一般的、学術、仕事、娯楽の幅広い話題について、言いたいことを制限せずに、適切な文体ではっきりと自分を表現できる。	文法的な正確さを大体において維持することができる。誤りはめったにないし、まず気づかれないし、実際に犯したとしてもたいていは自分で訂正できる。	概念化が難しいときにもみ、言葉の自然な滑らかさが妨げられるが、それ以外は、流暢に自然に、ほとんど苦労せずに自己表現できる。	手持ちの談話表現からふさわしい語句を選んで、自分の話を切り出したり、話を続けることができる。自分の発言を他の話や相手の発言に関係づけられる。	談話構築手法、接続表現、結束手段が使いこなせ、明瞭で流れるような、構成の整った話をする事ができる。
B2+					
B2	十分に言葉を使いこなすことができ、一般的な話題についてなら、ある程度複雑な文を用いて、言葉をわざわざ探さなくても自分の観点を示し、はっきりとした説明をすることができる。	比較的高い文法能力を示す。誤解を起こすような誤りはしない。たいていの間違いは自分で訂正できる。	文例や表現を探すのに詰まったりするが、気になるような長い休止はほとんどなく、ほぼ同じテンポである程度の長さで表現ができる。	いつもエレガントとはいかないが、適切に発言の機会を獲得したり、必要なら会話を終わらせることができる。身近な話題の議論で、人の発言を誘ったり、理解を確認したり、話を展開させることができる。	使うことができる結束手段は限定されており、長く話すととなるときこちなさがあるが、発話を明瞭で一貫性のある談話につなげることができる。
B1+					
B1	家族、趣味、興味、仕事、旅行、現在の出来事のような話題について、流暢ではないが、言い換えを使いながら表現するだけの語彙を十分に有している。	予測可能な状況で、関連した非常によく用いられる「決まり文句」や文型をかなり正確に使える。	長い一続きの自由な発言をするとき特に、文法を考えたり語彙を探したりする際の言いよどみや言い直しが多く、修正が目立つが、わかりやすく話を進めることができる。	身近な個人的な関心事について、一対一なら、話を始め、続け、終わらせることができる。お互いの理解を確認するために、誰かが言ったことを部分的に繰り返して言うことができる。	一連の短い、不連続な単純な要素を連結し、並べていって、話ができる。
A2+					
A2	覚えたいいくつかの言い回しや数少ない語句、あるいは定式表現、基本的な構文を使って、日常の単純な状況の中でなら、限られてはいるが情報を伝えることができる。	まだ基本的な間違いが決まったところで出てくるが、いくつかの単純な構造を正しく用いることができる。	休止が目立ち、話し出しの仕方の間違いや、言い直しが非常にはっきり見られるが、短い話ならできる。	質問に答えられ、簡単な話に対応することができる。自分で会話を続けることができるほどには十分に理解できていないことが多いが、話についていっていることをわからせることができる。	‘and’ 「そして」、‘but’ 「でも」、‘because’ 「なぜなら」などの簡単な接続表現を使って単語の集まりを結びつけることができる。
A1	個人についての情報や具体的な状況に関する基本的な語や言い回しは使える。	限られた文法構造しか使えず、構文も暗記している範囲でのみ使える。	表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するためにつっかえ、つっかえ話すが、単発的な、予め用意された発話ならすることができる。	個人的な事柄について詳しく質問をしたり、答えることができる。繰り返し、言い換え、修正に完全に頼ったコミュニケーションではあるが、簡単な会話はできる。	単語の集まりや個々の単語を ‘and’ 「そして」、‘then’ 「それで」などごく基本的な接続表現を使って結びつけることができる。

参考資料

Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第二刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）、朝日出版社